



## 住民の命と財産を守り抜く

消防団春季検閲で訓練の成果披露



猪小での訓練に先立ち、町内を行進する消防団員ら

町消防団の春季検閲は4月29日、猪苗代小学校で開催され、町内6分団から385人が参加しました。団員らは、小学校での訓練に先立ち町内をパレード。中央商店街などを行進し、町民に日ごろの訓練の成果などを披露した後、小学校での規律訓練などに臨みました。訓練後には土屋孝彦消防団長が「東日本大震災で犠牲となった団員たちは、最後まで住民を守ろうと必死で頑張った。仲間の冥福を祈るとともに、住民の命を守ることへの責任と誇りを持って消防活動に取り組んでほしい」とあいさつ。防災への誓いを新たにしました。

## 農村環境向上活動に表彰状

長坂ふるさと資源保存会に表彰状



受賞を喜ぶ黒澤会長(左)と渡部庶務(右)

福島県農地・水・環境保全向上対策地域協議会の優良活動組織として表彰を受けた、長坂ふるさと資源保存会への表彰状伝達は5月16日、同地区の長坂集会所で催されました。

この表彰は3月12日、県土地改良会館で開催される予定でしたが、東日本大震災の影響により開催できなくなったものです。

町農林課の石川洋一課長らが同集会所を訪れ、黒澤孝会長と渡部透庶務らに表彰状と盾を手渡しました。黒澤会長は「取り組みが評価されてうれしい。受賞を励みに、今後も地域が一丸となって環境の向上に努めていく」と抱負を述べました。

## 水質日本一の復活のために

LCが草刈りフォークなどを寄贈



津金町長から山口ガバナー(右)に感謝状が送られました

ライオンズクラブ国際協会332-D地区(山口一男ガバナー)の第57回年次大会は5月15日、学びいなかで開かれ、県内の各ライオンズクラブ(以下 LC)から約450人が出席しました。

LCは、今大会の記念活動として、猪苗代湖の水質改善に役立ててほしいと草刈りフォークとローダンプを町に寄贈。大会の席上で津金町長に目録を手渡しました。このフォークは、パワーショベルに装着してヨシの刈り取りを可能にする特殊な機械。猪苗代湖の北岸に群生し、水質汚濁の一因にもなっているヨシの除去に力を発揮することが期待されます。

## 東日本大震災の犠牲者弔う

亀ヶ城桜祭りで慰霊祭などを実施



なみえ焼きそばの振る舞いは大人気。古里の味をもとめて長蛇の列ができました

亀ヶ城桜祭りは5月1日、亀ヶ城公園みんなの広場をメイン会場に開かれました。同イベントは、HOPE猪苗代(田原幸雄代表)の主催、商工会町支部、(社)猪苗代観光協会やライオンズクラブ国際協会332-D地区などの共催。

ことしの桜祭りでは、コンサートなどのイベントのほか、支援物資の提供、なみえ焼きそばやとん汁の振る舞いなどを実施。東日本大震災の影響を受け、町内で避難生活を送る人たちを勇気づけました。

また、震災の犠牲者を供養するために執り行われた合同慰霊祭では、地震の発生した日にちなみ、2011本のろうそくと311本のたいまつで「2011.3.11」の数字を浮かび上がらせ、被災者の霊を慰めました。



被災者らが追悼の言葉や復興への誓いなどのメッセージを添えたりろうそくで作られた「2011.3.11」の文字



祈るような気持ちで黙とうをささげる家族。実家が津波の被害に遭い、ご両親がまだ見つからないと話した

## 町の農業振興の拠点として

町地域農業活性化センターが開所



開所式で式辞を述べる津金町長

18年3月に閉鎖し、町が利活用を検討してきた県農業試験場冷害試験地が改修を終え、町地域農業活性化センター(愛称は「アグリいな」に決定)として生まれ変わりました。

開所式は5月12日、同施設で開かれ、関係者など約40人が出席。津金要雄町長が「6次産業化(※)を推進する施設として活用したい」と式辞。鈴木武喜町議会議員、遠藤亭県会津農林事務所長、小松山善継県議らが祝辞を述べました。

同施設は、農業経営改善支援センターとしての役割のほか、体験農業など交流事業の拠点としても活用されます。

※6次産業化…生産(1次産業)だけでなく、食品加工(2次産業)、流通・販売(3次産業)にも主体的・総合的に関わり合うことで付加価値を高め、活性化につなげていこうという考え方。



## 磐梯山に登山シーズン到来

例年より2週間遅れで磐梯山開き



残雪を踏みしめながら山頂を目指す登山者ら

県を代表する名峰磐梯山(1,816m)の山開きは5月22日に開催され、約1,500人の登山者が山頂を目指しました。

猪苗代登山口では、関係者や登山者らが参加して安全祈願祭を執り行い、シーズン中の無事故を祈願。東日本大震災からの復興に向け、「頑張ろう」を三唱して登山を開始しました。

山開きに合わせ、環境省裏磐梯自然保護官事務所が試験的に携帯トイレの導入を実施。職員らが弘法清水小屋付近に仮設テントを設置し、登山者に携帯トイレの使用方法などを説明し、環境保全への理解を求めました。

## 避難者にラーメン振る舞う

郡山市出身の箭内さんが炊き出し



ラーメンを振る舞う箭内さん(中央右)

郡山市出身のクリエイティブディレクター箭内道彦さんは5月19日、町内長浜を訪れ、炊き出しを実施しました。

「震災の影響で避難生活を送る人たちに、気分転換をしてほしい」という箭内さんの呼び掛けに、都内の飲食店やCM制作会社のスタッフら約30人が賛同。青森しじみラーメン、ギョーザやサラダなど約200食分を振る舞いました。

浪江町から避難している佐藤繁芳さんは「おいしくいただきました。避難生活は一日が長い。こういうイベントがあると気分転換になるし、ありがたい」と話しました。

## 町の環境保全型農業に栄誉

環境保全型農業推進で優秀賞受賞



表彰状を受け取る宇川副会長(左)

第16回環境保全型農業推進コンクールで優秀賞(全国農業協同組合中央会長賞)を受賞した、町環境にやさしい農業推進会議への賞状伝達式は5月24日、町役場で執り行われ、JA福島中央会の遊佐正弘農業対策部長が宇川進副会長に表彰状と盾を手渡しました。コンクールは全国環境保全型農業推進会議の主催で、今回の受賞は猪苗代湖の水質保全活動や優良堆肥製造施設の設置など、同会議の取り組みが評価されたものです。

表彰を受けた宇川副会長は「町民と一体になってやってきた仕事が評価されてうれしい」と話しました。

## 一層深まる伊那市との交流

伊那市で正之公生誕400年記念事業



保科家の祈願寺、樹林寺の保科正之公頌徳碑の前で記念写真

長野県の伊那市観光協会が主催する「名君保科正之公生誕400年記念事業」は4月29日、伊那市高遠町総合福祉センターで開催され、猪苗代の偉人を考える会の江花俊和会長もパネラーとして参加しました。正之公に縁のある本町と伊那市の交流をさらに深めようと、同会が企画したツアーには会長のほか21人が参加。正之公への理解と交流を深めました。

江花会長にツアーの感想などをまとめていただきましたので、ご紹介します。

伊那市高遠町で行われた「保科正之公生誕400年記念事業」にツアーを組んで参加してきました。親善友好都市である伊那市からは、昨年10月に猪苗代で開催したイベントにも大勢参加していただきました。また、東日本大震災でもいち早く救援物資を送っていただくなど大変お世話になっています。そのお礼も兼ねて、伊那市を訪問しようと猪苗代の偉人を考える会が企画しました。

式典は正之公の石像の前でしめやかに、本町を代表して鈴木幹男副町長と鈴木武喜町議会議長が玉串をささげて正之公の冥福を祈りました。その後のシンポジウムでは、「国家の品格」の著者藤原正彦氏が「日本という国」と題して講演し、「この大震災には保科正之公のようなリーダーが必要」と話しました。「保科正之公の大河ドラマ化を目指して」をテーマにしたパネル討論会では、直木賞作家で保科正之の著書が多い作家の中村彰彦氏、菅家一郎会津若松市長、伊東義人前高遠町長と私の4人がパネリストを務め、NHK大河ドラマ化の早期実現に向けた50万人の署名獲得という目標を確認し合いました。

2日目は、タカトオコヒガンザクラがまだ咲き残る高遠城や保科家の菩提寺など、正之公ゆかりの史跡を案内していただき、さらに知識を深めることができました。本町から参加した22人は、夜の交流会などでも大いに歓迎していただき、伊那市との交流も一段と深まったと思います。秋に猪苗代で開催予定の「生誕400年記念事業」にはぜひお出でいただき、保科正之公の大河ドラマ化に向け、さらに交流を密にしていきたいと思

います。  
猪苗代の偉人を考える会 会長 江花俊和

## 新たな町の交流拠点が開所

まちのえき「まるしめ」がオープン



地場産品などが並ぶ「まるしめ」の店内の様子

「猪苗代まちのえき まるしめ」のオープニングセレモニーは5月10日、同所で開催され、関係者ら約30人が出席しました。空き店舗利活用事業の一環として、株式会社まちづくり猪苗代(江花祥雄代表取締役)が昨年4月に旧小林書店に開設した「こぼほん」が東日本大震災の影響で使用できなくなったため、マルシメ商会の協力を得て移転、再オープンにこぎ着けました。

セレモニーでは江花社長が「地域の皆さんが気軽に立ち寄れる場所として利用してほしい」とあいさつ。津金町長、鈴木武喜町議会議長らが祝辞を述べた後、テープカットで開所を祝いました。